

探究・校務改革 支援補助金 2025

令和6年度補正予算
地域未来人材育成支援民間サービス等利活用促進事業費補助金



探究的な学びの高度化/教職員の校務負担軽減を目指して

効果報告レポート

【事業者名】

株式会社SPLYZA

【サービス名称】

SPLYZA 体育・探究授業支援パッケージ(SPLYZA Teams/Motion)

【サービスの支援項目】

カテゴリ1-1 探究的な学びの高度化 メインサービス

2026年1月



SPLYZAのツールは「正解のない問題」を探究するチカラを育みます。

私たちSPLYZAは、「スポーツは考える力を育む」をコンセプトにアプリケーション開発でスポーツ×教育を支援しています。

日本の教育現場で日々追求されている、児童・生徒の興味・関心を創造し、主体的で対話的な深い学び。その機会を私たちは自社アプリで提供します。

■探究・校務改革支援サービスの概要

1. サービスの概要、特徴

(1)導入によるメリット、類似サービスとの違い等

- 映像分析ツール「SPLYZA Teams」と、動作解析ツール「SPLYZA Motion」を中核とした、探究的な学びの高度化を実現するパッケージサービスです。
- スポーツという生徒の関心が高いテーマを扱い、ICT を活用し、『課題発見→仮説設定→検証→考察』の探究プロセスを実現することで、主体性やデータ分析能力を育成します。
- 特殊な機材を必要とせず、タブレット1台で高度な動作分析や映像共有が完結するため、通常の授業内で手軽に「スポーツサイエンス」や「STEAM教育」を実践可能です。

(2)学習に関連する効果又は業務効率化・利便性等に関連する効果

- SPLYZA Teams: 映像への描き込み・タグ付けを通じ、言語能力と協働的な学びを促進します。「正解のない問い」に対して児童・生徒間で議論する環境を作ります。
- SPLYZA Motion: 身体動作を数値化(速度・角度等)することで、感覚的な指導ではなく、データ(根拠)に基づいた論理的思考力を養います。

(3)サービスの活用場面

- 体育授業: 自身の動きを客観視し、課題を言語化して解決策を練る「課題解決型学習」。
- 探究学習: 「どうすれば速く走れるか」等の問いに対し、仮説を立て、データを収集・分析して論文にまとめる「教科横断的な探究活動」。

■探究・校務改革支援サービスの概要

(4) 1サービスあたりの標準販売価格

- 1人あたり 2,200円/月 (税込)
 - SPLYZA Teams レギュラープラン: 690円
 - SPLYZA Motion 3Dプラン: 1,380円
 - サポートプラン: 130円

※上記価格には導入研修費、システム利用料、保守サポート費を含みます。端末代金や通信費は含まれません。

2. サポート内容(サービスの利用に際しての自社のサポート体制等)

※ツール提供にとどまらず、年間を通じて教職員の皆様を伴走支援する体制を構築しています。

初期導入サポート(4月～5月)

- アカウント発行とセットアップ支援
- 教員向け活用方法説明会の実施(操作説明・授業事例紹介)

オンラインサポート(6月～2月)

- 操作不明点の解消およびトラブルシューティング
- 授業案の相談や活用アドバイス(メール・オンライン会議)

年間まとめサポート(3月)

- 今年度の活用成果の振り返り
- 次年度に向けたフィードバックと改善提案

■学校等教育機関の課題と解決策

生徒の関心が高い「スポーツ」を探究のテーマとし、ICTツールで高度な動作分析を手軽に実践できる環境を構築しました。これにより、生徒の**内発的動機**を引き出すとともに、感覚のみに頼らない「**データに基づく論理的な探究プロセス**」を実現し、学びの質を高度化させました。

児童生徒・教職員が抱える課題

探究学習の形骸化

- 「総合的な探究の時間」と各教科の関連性が不明確であり、学びが分断されている。

主体性の不足

- 生徒の興味に基づいたテーマ設定が難しく、学習意欲（内発的動機）を引き出せていない。

プロセスの質

- 探究プロセスの中でも特に「情報の整理・分析」「まとめ・表現」の指導が難しく、活動が浅くなりがちである。

サービスが果たす役割

スポーツ×探究

- 高校生の約7割が関心を持つ「スポーツ」を入り口にするこことで、高い学習意欲を引き出す。

データ分析の民主化

- 従来は研究機関でしか扱えなかった動作データ等を、生徒自身が手軽に取得・分析できる環境を提供し、高度な「整理・分析」活動を実現する。

教科横断的な学び

- 体育（データ取得）×数学（解析）×国語（言語化）など、教科を横断した深い学びへ導く。

サービスの活用風景・授業の流れ

講義



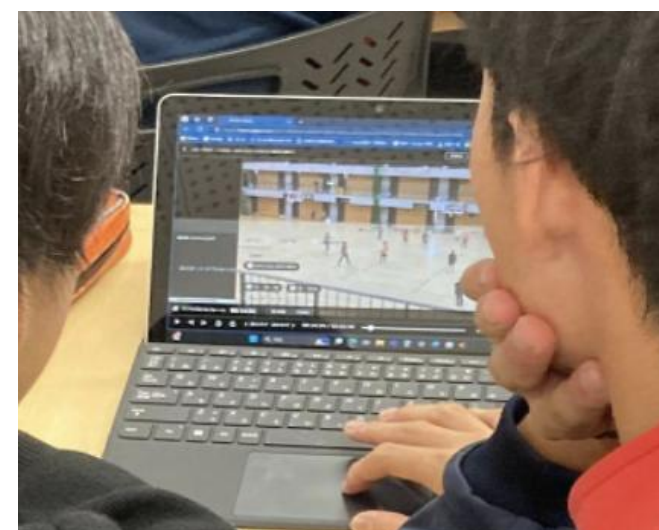
- 「スポーツを探究するとはどういうことか」について、SPLYZAスタッフによる講義を実施。
- 探究のプロセスやツールの活用方法を学び、生徒自身が問い（リサーチクエスチョン）を設定するための土台を構築しました。

即時フィードバックと試行錯誤



- 体育館やグラウンドでの活動中、撮影した直後にその場で映像を確認。
- 「自分たちの動きが仮説通りになっているか」をグループですぐに検証し、次のトライへ活かすという「**高速なPDCAサイクル**」を実現しました。

データに基づいた協働的な学び



- 撮影した映像やSPLYZA Motionで算出した数値データを元に、「なぜ上手くいかなかったのか」を議論。
- 主観や感覚だけでなく、**客観的な事実（映像・データ）を共通言語にすること**で、建設的で深い対話が生まれました。

本事業においてサービスを導入した学校設置者数・学校等教育機関数

学校設置者数	8	学校等教育機関数	8校
--------	---	----------	----

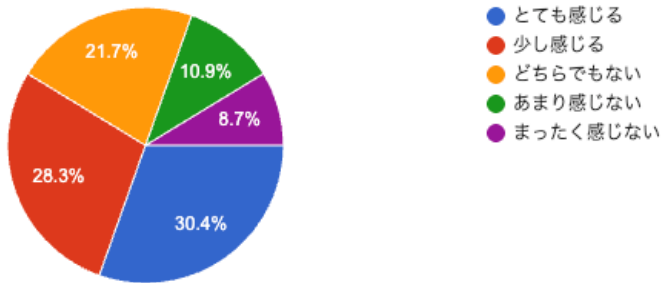
	学校設置者名	学校名	所在地	学校種	学年	実施内容
1	東京都教育委員会	東京都立上水高等学校	東京都	高等学校	1年生,2年生,3年生	体育・探究
2	学校法人駒澤大学	駒澤大学附属苫小牧高等学校	北海道	高等学校	1年生,2年生	体育・探究
3	鹿児島県教育委員会	鹿児島県立明桜館高等学校	鹿児島県	高等学校	1年生,2年生,3年生	体育・探究
4	学校法人東海大学	東海大学付属大阪仰星高等学校	大阪府	高等学校	2年生	体育・探究
5	学校法人龍澤学館	盛岡中央高等学校	岩手県	高等学校	1年生,2年生,3年生	体育・探究
6	東久留米市教育委員会	東久留米市立小山小学校	東京都	小学校	6年生	体育
7	広島県教育委員会	広島県立祇園北高等学校	広島県	高等学校	1年生,2年生,3年生	体育・探究
8	兵庫県教育委員会	兵庫県立川西明峰高等学校	兵庫県	高等学校	3年生	体育・探究

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

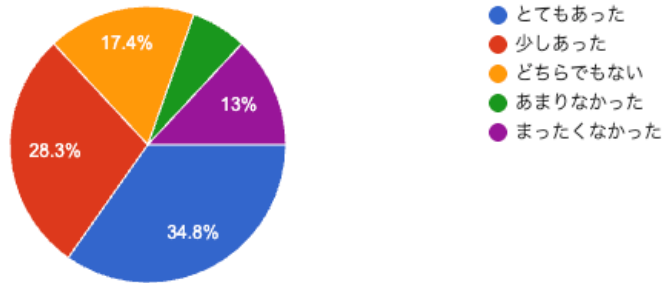
映像分析を通じた「思考力」と「協働性」の向上

これまでよりも「体育が楽しい」と感じますか。
(N=46)



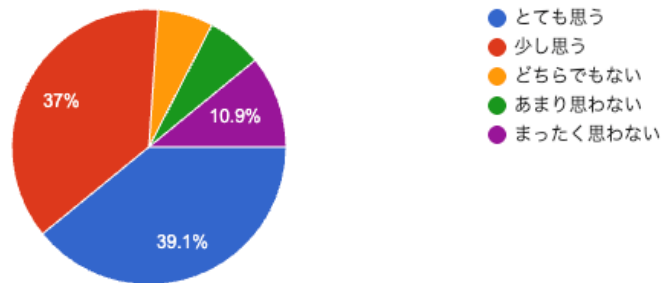
「これまでよりも体育が楽しい」という回答が約6割に達しており、従来の形態と比較した際の満足度向上が見て取れます。ICT機器を用いた分析活動が、生徒にとって負担感の少ない「新しい学びのスタイル」として、授業の中に違和感なく定着・受容されている状況がうかがえます。

友達のタグやコメントで新しい気づきがありましたか。
(N=46)



「友達のタグ等で新しい気づきがあった」との回答が多数。「自分では気づけない視点」を他者から得ることで、対話的な学び(ピア・ラーニング)が活性化しました。

自分で課題を見つけたり、解決策を考えたりする力が身についたと思いますか。
(N=46)



約76%の生徒が「自分で課題を見つけ解決策を考える力が身についた」と回答。映像をただ見るだけでなく、タグ付けや描き込みを通じて分析することで、主体的な問題解決プロセスが定着しました。

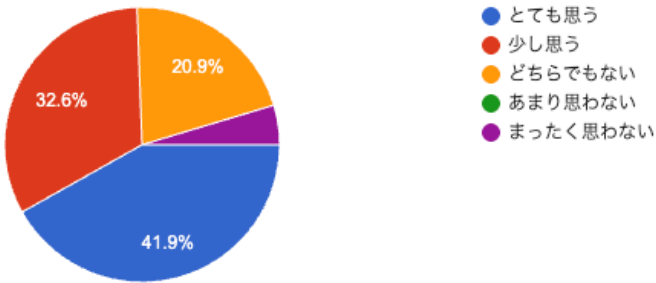
※教育効果の検証精度を高めるため、ライセンス付与者全体のうち、本年度において一連の探究プロセスを継続的に実施した児童生徒を対象に実施・集計いたしました。

【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定量的効果検証

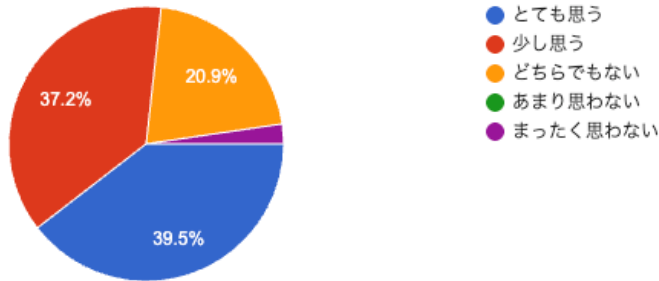
データ駆動型探究による「技能」と「論理性」の深化

自身の技能向上につながったと思いますか。
(N=43)



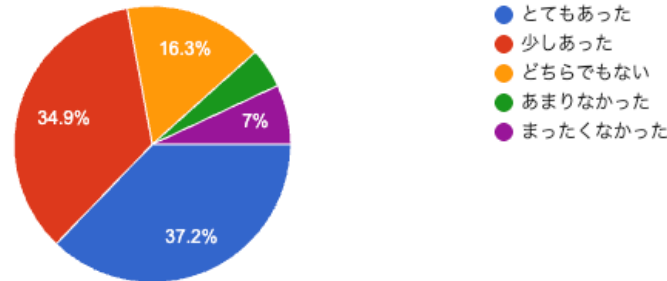
分析結果を実践に還元することで、約74%が「技能向上に繋がった」と回答。頭での理解(理論)と身体動き(実践)がリンクし、効率的なスキルアップを実現しています。

データ等の根拠を示して説明する力が身につきましたか。
(N=43)



約77%の生徒が「データ等の根拠を示して説明する力が身についた」と実感。感覚的な言葉ではなく、数値や軌跡などの客観的データを用いることで、説得力のある議論が可能になりました。

体育・スポーツに対する考え方の変化はありましたか。
(N=43)



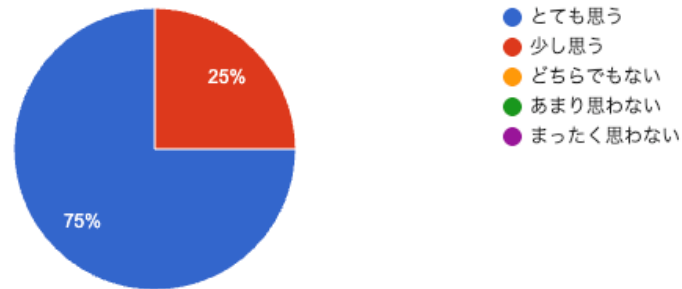
「考え方の変化があった」という回答が多く、「スポーツは感覚だけでなく、論理的に考えることも重要だ」という新たな価値観(スポーツサイエンス的視点)が醸成されました。

※教育効果の検証精度を高めるため、ライセンス付与者全体のうち、本年度において一連の探究プロセスを継続的に実施した児童生徒を対象に実施・集計いたしました。

定量的効果検証

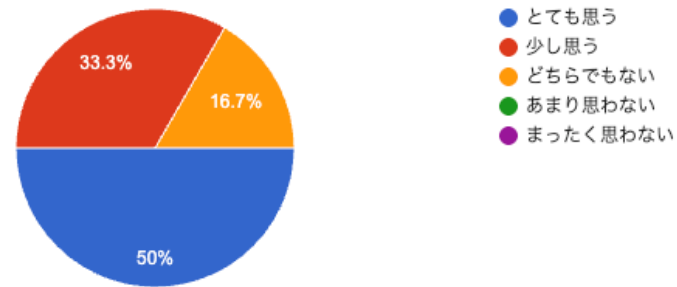
データ駆動型探究による「技能」と「論理性」の深化

新指導要領・探究学習に適合していますか？
 (N=4)



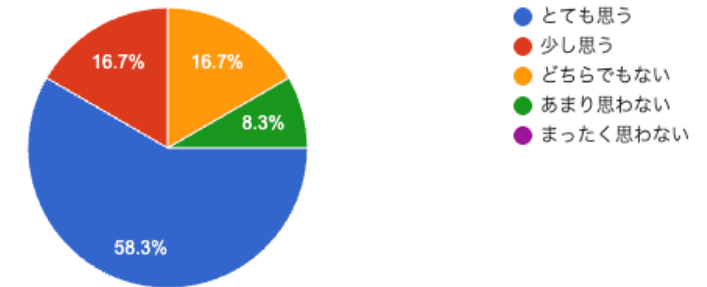
回答した教員全員(100%)が、本サービスは「新指導要領および探究的な学びに適合している」と評価。「思考・判断・表現」の評価材料として極めて有効であることが実証されました。

根拠を示して説明する力が身についたと思いますか？(N=12)



「根拠を示して説明する力」についても肯定的な評価が支配的です。教員からは「これまで感覚で伝えていた部分を数値で示せるようになり、指導の説得力が増した」との声があがっています。

スポーツ探究の課題は解決されましたか？
 (N=12)



スポーツ探究における長年の課題(テーマ設定の難しさ、評価の曖昧さなど)についても、多くの教員が「解決された」と実感しています。

※教育効果の検証精度を高めるため、ライセンス付与者全体のうち、実際に授業で本サービスを活用し、指導を行った担当教員を対象に実施・集計いたしました。

■【児童・生徒の探究学習】【教職員の業務効率化・省力化】等サービス活用による成果

定性的効果検証

データ駆動型探究による「学びの質的転換」

スポーツにおける「感覚的な指導」から脱却し、映像と数値を活用した「データ駆動型の探究活動」を導入。これにより、生徒の思考プロセスは「主観」から「客観」へ、学習態度は「受動」から「能動」へと変容しました。

1. 思考の深化 (Logic)

- 以前は「もっと大きく動く」といった曖昧な感覚言語が飛び交っていた現場が、SPLYZA Motionの導入により変化しました。
- 「肘の角度が110度」「速度が0.2秒遅い」といった客観的な数値データが判断基準となり、生徒は**事実(根拠)に基づいて仮説を立て、論理的に検証する力**を獲得しました。

「感覚だけでなく、データを根拠として話し合うことができた」(生徒)

2. 協働の活性化 (Collaboration)

- 映像とデータがクラス全員の「共通言語」となったことで、競技経験や運動神経の有無に関わらず、**すべての生徒が分析・議論に参加**できるようになりました。
- 互いのフォームにタグ付けし、改善点を指摘し合うピア・ラーニング(協働学習)が自然発生し、学びの孤立が解消されました。

「自分では気づけない改善点を友達が教えてくれ、議論が活発になった」(生徒)

3. 主体性の確立 (Agency)

- 身体データの活用により体育と他教科の学びが繋がり、「探究の形骸化」を解消。**教科横断的な実践**が生徒の内発的動機を大きく向上させました。
- 数値に基づく試行錯誤が、情報の整理・分析を伴う「質の高い探究プロセス」を実現。単なる練習が、**知的好奇心を満たす「研究活動」**へと昇華されました。

「細かく分析できるから調べていくとどんどん楽しくなり、深く考えるようになった」(生徒)

「これまでは定性的な観察に留まっていた指導が、定量的な分析へと進化したことで、生徒の研究の幅が格段に広がりました。大学の研究レベルに近い高度な探究活動が、高校生の授業内で実現できています。」(教員)

■探究・校務改革支援サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

導入当初、教員間のICT活用スキルや「データに基づいた探究指導」への習熟度にばらつきがあり、活用の定着に課題があった。これに対し、単なるツール提供に留まらず、テーマ考案支援資料の提供や、年間を通じた伴走支援（サポートプラン）を強化することで、教員の心理的・実務的負担を軽減し、質の高い活用の継続を実現した。

直面した課題

教員間のICT活用スキルの個人差

- 操作に不慣れな教員もあり、学校全体での導入においてスムーズさにばらつきが生じる場面があった。

データ活用指導のノウハウ不足

- 「取得したデータをどのように授業評価や成績に反映させるか」「探究のプロセス評価にどう組み込むか」という具体的な指導イメージを持ちにくい教員が多く、活用が単発的な「撮影体験」で終わってしまう懸念があった。

継続的なモチベーション維持

- 多忙な校務の中で、新しいツールの活用を年間を通じて継続するための動機付けや時間確保が難しいという声があった。

解決するための改善策

授業支援テンプレート・教材の提供

- 操作マニュアルだけでなく、そのまま授業で使える「単元計画表」「探究学習カリキュラム案」「テーマ考案支援資料」等の教材テンプレートを提供・拡充し、準備負担を大幅に軽減した。

伴走型サポート体制（サポートプラン）の確立

- 初期セットアップから期中の活用相談、期末の振り返りまで、フェーズに合わせたオンラインサポート（個別相談会・定期研修）を実施。トラブルや疑問を即座に解消する体制を整えた。

実践事例の共有とコミュニティ化

- 先進校の活用事例や「生徒の変容」の様子を共有する機会を設け、教員自身の「使ってみよう」という意欲（内発的動機）を高めるアプローチを行った。

高校・探究担当教員

- 体を動かす運動などは数値などで表すことが難しいですが、データを数値化・グラフ化できるので**表現の幅が大幅に増えました。**
- スポーツを探究テーマに選びたい生徒は多いものの、それをデータ化し表現することが困難でしたが、その課題解決に大いに役立ったと感じています。

高校生・探究での利用

- 「自分の動きを客観的に見ることができ、より改善する点などがわかるようになった。」
- 「分析した動画を見て、お互いに『こうだと思う』などが話しやすくなった。何を改善すべきかわかったので、**苦手意識が薄れた。**」
- 「感覚だけでなく、**データを根拠として話し合うことができた。**」

高校・体育教員

- 映像を使って、**体を動かすだけでなく「考える力」を養うことができました。**運動が得意ではない生徒でも、コメント機能を使って多くの気づきを書き込んでおり、個別指導もしやすくなりました。
- 探究学習で使用した生徒たちの活動が深くできたという実感が生徒・教員の双方にありました。**科学的に分析するという取り組み**ができ、生徒同士の話し合いも非常に活発に行われていました。

高校生・体育での利用

- 「細かく自分の動きを分析できるから、調べていくとどんどん楽しくなる。」
- 「チームで話し合ったり個人で見た時に課題が見つかる。**自分では気づけない動きの良いところや改善点を友達が教えてくれた。**」
- 「これまで専門競技以外は深く考えずにプレーしていたけど、**深く考えてプレーできるようになった。**」

社名	株式会社SPLYZA
代表	代表取締役 土井 寛之
設立年月	2011年5月
本社	〒430-0805 静岡県浜松市中央区相生町16-13
資本金等	1億円
売上高等	1億5,837万円
従業員数	28名
事業内容	<p>～アプリケーション開発でスポーツ教育・ヘルスケアを支援～</p> <p>「正解のない問題」を解く過程で”考える力”を育むことをミッションとし、主体的・対話的・探究的な学びを促進するツール(SPLYZA Teams / SPLYZA Motion)の開発・提供を行っています。</p>

■お問い合わせ窓口

担当:成田 勝彦

電話:053-523-7719

Mail:academic@splyza.com